



アライグマ



自動撮影カメラによって確認されたアライグマ 4 頭



エッグトラップによって捕獲されたアライグマ



カゴ罠によって捕獲されたアライグマ

アニメで有名になったアライグマのラスカル。あんな可愛いラスカルを飼いたいと、多くのアライグマの子供が北米から輸入され、成長した結果、噛みつかれるなど危険になり、飼いきれなくなって、一部は逃げられたり、野外に放されたりし、日本の自然に定着し繁殖してきた。2000年ごろには神奈川県、千葉県、北海道等一部の地域だけで自然繁殖が見られたが、現在ではほぼ日本全国で自然繁殖が確認されるようになった。数の増加に伴って、農作物被害や人家への侵入、在来動物への影響が拡大し、人畜共通伝染病の脅威などが危惧されるようになった。

静岡県では、2003年に富士宮市で捕獲されたのを皮切りに、蒲原、由比地区などから生息情報が寄せられ、今では県内広く、浜松から伊豆までその生息が確認されるようになった。

我々NPOでは、静岡県や静岡市からのアライグマ生息調査の依頼を受け、自動撮影カメラによる確認から、トラップによる捕獲調査まで、6回にわたって協力してきた。

静岡市から依頼を受けた2009年度の調査では、静岡市街地の80か所にカメラを設置し、結果、清水区の興津川周辺、由比、蒲原地域の15か所でアライグマが写っていた。次に2013年度に実施した生息調査では、同じようなところにカメラを83か所設置したところ、27か所でアライグマが確認され、駿河区や葵区でも確認された。6年間で静岡市内では、分布が西に14km広がったことになる。

アライグマは、春に4～6頭ほどの子供を産み、天敵がないため、子供の生存率も高く、かつ育った子供は、新しいなわばりを求めて、外へ外へと広がっていく。このまま行けば、近い将来県内の至る所で見られることとなり、その被害の増大も懸念される。

事実、最近では富士宮市の市街地の住宅街でも何頭も捕獲されており、このまま放置しておくとは大変なことになる。対策としては、捕獲を進めて少しでも多くのアライグマを駆除すること以外にはないのであるが、罠の設置や、見回り、殺処分の方法など、まだ課題も多くあり、一部の地域を除いては殆ど進んでいない。

しかしこのまま放置しておけば、農家の被害や日本の野生動物の生態系に大きなダメージとなる。一刻も早く、行政や市民、猟友会などが協力して捕獲を進めていく必要性を痛感する。